

アマイアリー (試交番号17N.4067)

黄化葉巻病耐病性ミニトマトの決定品種



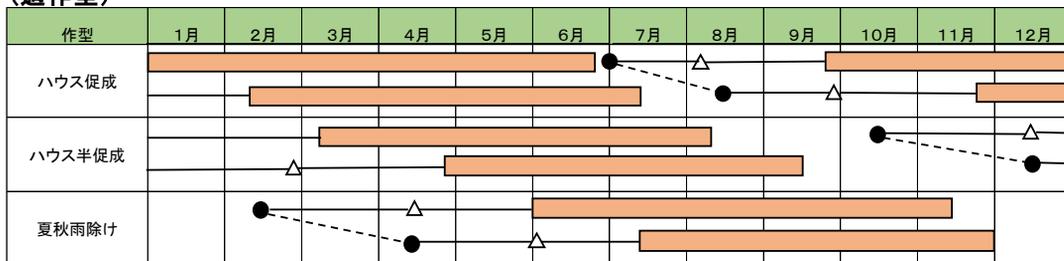
品種特性

- ・多収性と食味の良さを併せ持つ黄化葉巻病耐病性のミニトマト品種
- ・果重15g前後で、鮮やかな果色の美しい果実を着ける。
- ・安定して糖度8度前後、収穫期間を通して良食味を示す。
- ・低段からダブル花房を着け、花数も安定している。
- ・高温期においても裂果が極めて少ない。
- ・長期栽培に適した強く安定した草勢を示す。
- ・節間がやや長く、葉は水平に展開し、スッキリとした草姿になる。軒高の高いハウスでのハイワイヤー栽培に適す。
- ・病害抵抗性はトマトザイクウィルスTm-2a、葉カビ病 (Cf-9)、萎凋病レース1,2、根腐れ萎凋病、半身萎凋病レース1
- ・病虫害耐性は黄化葉巻病 (イスラエル系、マイルド系)、斑点病、ネバセンチュウ

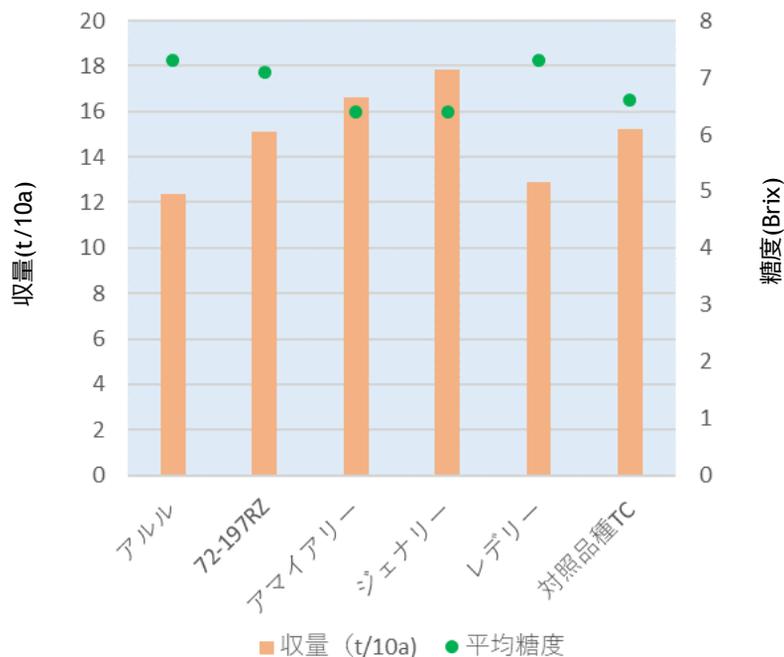
栽培のポイント

- ・かなり草勢の強い品種のため、夏期の定植では摘葉等の草勢のコントロールが必要です。
- ・特に強勢台木品種と接木を行う場合、2本仕立てでの栽培スタートをお勧めします。
- ・高温条件下では、花房形状が乱れ易い傾向があります。促成栽培では8月中旬以降の定植をお勧めします。
- ・花数が多く着きすぎた場合は、花房先端の小花を取り除いてやります。
- ・養液栽培では、秋から春にかけてはEC 3~3.5mS程度の高めの養液濃度での栽培をお勧めします。

(適作型)



● : 播種期 △ : 定植期 〇 : 収穫期



熊本県内における促成栽培
ミニトマト試験結果2019年8月～20年7月
(各品種株数234本)

北海道におけるミニトマト品種の夏秋栽培試験(2020)

品種	総収量/株(kg)	可販果率(%)	平均果重(g)	平均糖度(Brix)	コメント
対照品種CT	3.32	64	12.6	8.4	劣果多い
アルル	2.79	67	11.6	8.9	食味良い、果実小さい
72-197RZ	3.65	73	11.8	8.0	果揃い良し
アマイアリー	3.68	66	12.7	8.4	食味良い、果実やや大小有

* 北海道江別市で実施した夏秋栽培試験(土耕無加温パイプハウス)

定植日: 2020年5月19日 9cmポット実生苗を定植 収穫期間: 2020年7月8日～10月中旬 供試株数: 各品種6-8株

RZBJ社研究農場(千葉県)におけるミニトマト品種の抑制裁培試験(2020年)

品種	種苗会社	株当り		平均果重(g)	糖度(Brix)
		収量(kg)	不販果収量(kg)		
アマイアリー	RZ	2.35	0.24	14.0	6.87
アルル	RZ	2.00	0.19	9.4	6.83
72-197	RZ	2.28	0.14	10.6	6.34
対照品種TC	T社	2.02	0.17	14.5	6.71
対照品種SP	K社	2.12	0.16	14.9	6.10

定植日: 7月13日、収穫日: 8月21日～12月15日、無加温パイプハウスにおける土耕栽培、各品種株数: 16株